

報道関係者 各位

東日本大震災から12年。当時起きた痛ましい事故を風化させず、
いかにして事故や災害に対応し、生きていくかを考える。

専修大学法学部教授 飯 考行 編著
『子どもたちの命と生きる—大川小学校津波事故を見つめて—』を発売

専修大学(所在地:東京都千代田区、学長:佐々木 重人、以下本学)法学部教授 飯 考行は、この度『子どもたちの命と生きる—大川小学校津波事故を見つめて—』(信山社)を2月13日に発売いたします。

本書は、2011年3月の大川小学校津波事故*から12年(13回忌)を機に、関係者50名余りがそれぞれの視点から事故とその後の経過をたどり、地域の営みや今後の在り方を綴っています。大川地区は、震災の傷がまだ癒えないものの、時を経て、悲しみ、傷つき、対立、祈りから、命の大切さを育み、快復する段階に入りつつあります。本書を通じて、大川小学校の事例を様々な角度から見つめることは、子どもを亡くす悲しみを共有し、その命をせめてもの教訓として、私たちが事故や災害に対応していかに生きていくべきかを考える礎となるでしょう。

※: 2011年3月、東日本大震災の津波で児童74人(うち4人は行方不明)、教職員10人が犠牲となった宮城県石巻市の事故。

■書籍概要

書籍名: 子どもたちの命と生きる—大川小学校津波事故を見つめて—
編著者: 飯 考行(いい たかゆき)専修大学法学部教授
出版社: 信山社 判型:A5変版/308ページ
定価: 2,860円(税込) 発売日:2023年2月13日

■目次

第1章 大川小学校津波事故とその後の経過
第2章 遺族の思い
第3章 津波・学校事故を考える
第4章 防災の取り組みと地域の営み



<編著者 飯 考行 専修大学教授 略歴>

2005年 早稲田大学 法学研究科 民事法学 博士課程単位取得満期退学。2016年 専修大学法学部教授。法学博士。

[専門]基礎法学(法社会学、司法制度論)。

[主な著書]『民事陪審裁判が日本を変える—沖縄に民事陪審裁判があった時代からの考察』共編著 日本評論社 2020/05、『裁判員制度の10年—市民参加の意義と展望』共編著 日本評論社 2020/04、『あなたも明日は裁判員!?』共編著 日本評論社 2019/04 他

<著者からのコメント>

あの日から12年、わが子の命はなぜ失われたのか。大川小事故とその後の経過は、他の津波・学校などの事故や社会そのものを映し出す鏡のようなもの。本書では、関係者50名余りが、それぞれの視点から事故に光を当てています。裁判は終わり、校舎は震災遺構となりました。大川地区は、時を経て、傷つき、悲しみ、対立から、ともに命を育むステージに移行しつつあります。

2023年2月中旬より上映予定のドキュメンタリー映画『「生きる」大川小学校 津波裁判を闘った人たち』(監督:寺田和弘)とあわせて、大川小事故を様々な角度から見つめ、被災現場に足を運び、子どもたちの命をせめて今後の防災の教訓としていただければ幸いです。

